



練馬区民環境行動方針検討会議

私たち、練馬区民環境行動方針検討会議は約1年8か月の検討期間を経て、ここに「練馬区民環境行動方針」を提出することになりました。

2002（平成14）年、練馬区の「環境行動方針検討委員になりませんか」との呼びかけに対し、94名が参集しました。20歳代から70歳代までの検討委員が2002年12月16日に初めて出会い、そこで5つの分科会を立ち上げました。その後1年をかけ、委員それぞれが「まち環境」、「自然環境」、「ごみと資源」、「エネルギーと環境」、「有害物質」の各分科会に分かれながら「区民として望まれる環境行動とは何か」を考えてきました。

前から環境問題に取り組んできた人はもちろんですが、「環境問題を考えなければ」とは思いつつ、この検討会議で初舞台を踏んだ委員もいます。環境への認識を委員同士が共通にしながら、課題を見つけ、課題を解決方向へ導くため、各分科会とも精力的な活動を行いました。

10か所もまち歩きをして、練馬区の現状を現場で知ることから始めた分科会、事業者や専門家の講座を積極的に活用した分科会もあります。



日野市民との意見交換会

「私たちの活動は区民として特別なものではない」との認識から分科会活動はもちろん、各種行った勉強会も常にオープンにし、誰もが参加できる形式とするため、ホームページで分科会等の開催日をお知らせし、委員も他の分科会への参加を自由としました。それ以外にも『もっと！青い空』を発行し、検討会議の内容をお伝えしてきました。



まち歩き（農業体験農園にて）

2003（平成15）年9月6日、中間発表として各分科会の検討経過を発表しましたが、「委員以外の区民の参加が少ない」こと、「各分科会だ

けのまとめり（ホッチキス留めしたような）」だとの指摘を受けました。

では、1年近く経った今、委員以外の広がりを持たせたか、分科会を飛び越えた視野で環境行動への提案ができていないか、といえ、まだまだ道半ばだと感じています。

世代も性別も違う私たちが一堂に会し、今、まとめを提出しようとしています。中を読んでいただければお分かりになるように、分科会間はもちろん、分科会内の検討委員同士でさえ、環境に対する意識に多少のずれがあります。しかし、これは練馬区68万人区民のありのままの姿でもあると思います。

私たちは検討委員会の中で「環境行動方針」を持って環境行動検討委員の役目が終了ではなく、これが「はじめの一步」だということを確認しました。

「環境行動方針」が検討委員だけに留まっていたのでは、本来の意義を發揮できません。「環境行動方針」が当たり前のように68万人区民の行動に反映されることが真の目的なのです。



分科会の検討作業



「もっと！青い空」編集会議

ここに示した環境行動は、明日からすぐ実践できるものから、新たな組織を作って検討すべきもの、企業や練馬区の協力なしでは実行できないものまで多種多様にあります。それを進めていくのは誰であろう私たち区民なのだというをしっかり基本に据え、「区民環境行動方針」をお読みいただくとありがたいと思います。そして、このプロジェクトのいくつかが実現に向けて動き出す時、ぜひご参加ください。

地球は私たち今の世代の人間だけのものではなく、次世代、そして生きとし生けるもの総てのために存在していると考えます。だからこそ、地球環境をこれ以上悪化させないためにも、まずは足元の練馬区から、共に環境行動を起こしていきましょう！

2004（平成16）年8月